JR東労組東京
No.2
2022.7.9

第３９回定期大会
～大会宣言～

大会宣言~~（案）~~

再建から２年、本日、東京地本は第３９回定期大会を開催した。

私たちは、この一年間「万機公論に決す」誓いを胸に運動を進めてきた。のべ３２回開催した座談会には１５０名を超える仲間が結集した。滞っていた諸行事を再開し、多くの組合員と初めて顔を合わせることもできた。連絡体制の構築は少しずつ前進している。

新型コロナウイルス感染症は一定の終息をみて、輸送量と収入は戻りつつある。２１年度決算は、２年連続の赤字となったものの赤字額は大幅に縮小した。これは、現場・組合員の奮闘の結果に他ならない。だが、この努力は正当に評価されていない。夏季手当交渉では、他の労働組合が沈黙するなか、緊急申し入れを行い、アンケートなど職場の声を集約しつつ粘り強く闘い抜いた。業績回復時の処遇改善について「組合側の主張は否定しない」との会社回答を引き出したことは、今後の足がかりとなる成果である。生涯賃金の観点から、２１春闘でカットされた定期昇給の完全実施を求め続けよう。

構造改革が本格的に動きだした。国鉄改革は、公共企業体から分割・民営化という経営形態の大変革であった。経営方針は民間マインドへ転換した。しかし、鉄道基軸という点は変わらなかった。一方、今次の構造改革は「鉄道起点からヒト起点」への転換だ。これは、単なる業態変更ではなく、根本的な経営戦略の変更である。「国鉄改革以上の」「会社発足以来の」大変革である。鉄道事業は、融合と連携により分業が見直される。働き方の大変革である。社会・経営環境が激変している現実、とくに地方交通線の存廃問題が俄に俎上に上がっていることに留意する必要がある。サステナブルな鉄道とは、働く側からすれば職場と仕事を守ることだ。ＪＲ東労組の伝統的な効率化に向き合う姿勢は、今なお有効である。「是々非々」を基本とし「安全・健康・ゆとり」の観点から、職場からの挑戦で構造改革に立ち向かっていこう。

時代を見つめよう。米中対立のなかロシアはウクライナに侵攻した。この瞬間も罪のない人々が犠牲になっている。私たちは今、世界史的な事態を目の当たりにしている。平和と民主主義の旗手として、労働運動は存在し続けなくてはならない。

歴史はここから始まる。ＪＲ東労組結成３５年、えん罪・浦和電車区事件から２０年、「抵抗とヒューマニズム」を基調とする、組合員のための労働運動の灯を守り抜こう。

経営側のワンサイドゲームは随所に歪みを惹起させている。企業３０年説を危惧せざるを得ない。重苦しい社内の空気感は、会社の労務政策によるものだ。説明なき施策実施に示される上意下達・現場軽視は、労働組合を不要・敵視する労政と同根の問題である。今こそ、職場の声を正しく代表する労働組合が必要だ。

道は険しくとも「新生展望」。再建大会以降、１１名の仲間を迎えることができた。未来を展望し、新生東京地本の運動・組織を強化・拡大するために奮闘しようではないか。

以上、宣言する。

２０２２年７月９日
東日本旅客鉄道労働組合
東　京　地　方　本　部
第３９回定期大会